

献 辞

水岡先生は、1984年に、中西学園の愛知女子短期大学人文学科の助教授として着任され、2000年に、同学園の名古屋外国語大学外国語学部英米語学科の教授に就任されました。

水岡先生の専門分野は、広くは英語学と英米文学であり、特に英語史とシェイクスピアの言語芸術を研究テーマとされていました。授業においてもその分野とテーマに関するものを論じておられたのですが、それ以外に心血を注いでおられたものに資格英語という科目があります。これを通して、トーイック、トーフル、英検などの検定試験を本学の学生に浸透させ、それを、勉強成果を見るための一つの分かりやすい指標にされたことは、本学への大きな貢献として長く記録に残ることでしょう。

水岡先生の検定試験に対する情熱は比類がなく、1986年に英検の面接委員になられて以来、その委員を25年間も継続されました。そして、本学の学生が受験しやすいように、本学を英検会場にすることにも尽力されました。その御尽力のおかげで、本学は、平成16年度より幾度も優秀団体として文部科学大臣奨励賞を受賞するに至っています。さらに本学をトーフルやトーイックの会場にするためにも尽瘁され、2000年に、トーフルを開発している合衆国の教育検定機関 (Educational Testing Service) から、2003年には、トーイックを管理している日本の国際ビジネスコミュニケーション協会から、感謝状も送られています。

この間、研究面においても、中部地区の大学英語教員による名古屋語法研究会の中軸として、御自身の研究を深められ、研究会の発展にも精力を傾注されました。

その多忙の中、中国などからの留学生を御自宅で長期にホームステイさせ、文字どおり親身になって世話をされておられました。あるとき、その留学生が学術振興会特別研究員DC1の奨学金を取ったということを、御自

身の実の子どものことであるかのように嬉しそうに言っておられました。

水岡先生の教師としてのお人柄は、次のことから分かるでしょう。一つは、卒業式のあと、優秀者を表彰するために大勢の学生を待たせていた部屋においてです。他の先生方がその部屋に入ったときは、ささやき声もなく、静粛さだけが待っていました。しかし、水岡先生が入室されたときは、突然、拍手喝采がわきあがり、まるで有名芸能人がやってきたかのように、「ミズオカセンセ、ミズオカセンセ」と繰り返す歓声がとどろきました。もう一つは、私のクラスの忘年会でした。ある女子学生がこのように言いました。「水岡先生が退職されるって、ほんとですか。絶対来年も水岡先生の授業をとりたかったのに。学科の力で水岡先生を呼び戻せないのですか。」

英語教師の間では、英語教師としての力量と誠実さは入試業務をいっしょにすればすぐ分かると言うことがあります。私は、昨年初めて水岡先生と組んで作題しました。そして、こんなに博聞で真剣な先生がいてくださったのなら本学の入試は安泰だと喜びました。そこには、日ごろの冗談好きのお姿ではなく、英語の文法と語法の正しさや、設問と選択肢の適切さをただひたすら丁寧に、丁寧に何度も繰り返して吟味することに没頭されておられるお姿があるのみでした。

しかし、水岡先生は、平成24年3月末日をもって定年退職されることになりました。寂しい惜別です。英米語学科と本学にとって大きな損失です。いつか水岡名誉教授にまた御指導を乞わなくてはならないことでしょう。

末筆ながら、趣味の家庭菜園、自然観察、写真撮影、音楽鑑賞、そして何よりも多言語研究を楽しみながらいつまでもお元気でいてください。

2012年3月31日

英米語学科長

水光 雅則